



絆

教育目標

未来を創る生徒の育成
自分の未来を切り拓く力
ふるさとの未来を築く力

別海町立別海中央中学校

校長 小崎 伸人
令和7年(2025年4月7日)
第1352号(1号)

明日を想像(創造)し、今を全力で取り組む生徒の育成を目指して
=今日は昨日の明日~未来のために今一瞬を頑張る生徒=

幕が開く

校長 小崎 伸人

一足先にプロ野球が開幕しました。わがソフトバンクホークスは三連敗と厳しい始まりとなりましたが、長いシーズンの中においては連敗もあると、慌てず騒がず、だけれども応援し続ける気持ちでいます。ホークスファン歴は非常に長く、南海ホークス時代までさかのぼります。それでも、二度ほど心に迷いが生じたときがありました。一度目は南海という名前がなくなりダイエーとなり福岡に移転したとき。二度目は日本ハムが北海道に来たとき。しかし、いずれの時も自分自身の「好き」に封印することはできず、どんなに弱かろうと(実際、圧倒的に弱かった時代が30年近くに渡ってありました)強すぎると批判を受けようと今は完全敵地の北海道において、自分の「好き」を自分の心に従って貫いていきたいと考えています。

学校においても令和7年度の幕が開きました。新入生と進級したそれぞれの学年の生徒たち、新しく来られた先生方でまた新しい物語が始まります。生徒たちも自分の「好き」を見つけ、没頭し「好き」という気持ちを持つ自分自身を好きでいてくれることを願っています。

各種調査で中学生の自己肯定感あるいは自己有用感の低さが指摘されています。それは本校においても例外ではありません。自分に自信が持てない、自分が役立つ人間には思えないという否定的感情は、もしかしたら日本人特有の過度な謙遜から来る自分下げ文化の一端かもしれません。しかし、自分自身を好きになることがそれらを高める第一歩となります。そして、それは自分の周りにいる人たちから「認められている」という実感も必要とします。

一番身近な他人の大人である先生は生徒の周りにいる中の一人であり、生徒個々の良さを認め、伸ばしていく役割がありますが、私たちには他にも多くの役割が与えられています。

- Teacher(ティーチャー=学習をはじめとする物事を教える役割)
- Coach(コーチ=生徒の良さや強みを引き出しながら成長を促進する役割)
- Facilitator(ファシリテーター=生徒の協働を深めるための場づくり、生徒作りを行う役割)
- Generator(ジェネレーター=生徒と共に課題に対峙し、解決に向け一緒に学びを作る役割)

別海中央中教職員は、これらの役割を担いながら、卒業時にハッピーエンドとなる物語となるよう、時には心を鬼にして寄り添っていきます。

令和7年度の物語がどのように展開していくか、とても楽しみです。中学校3年間の中学校物語の主演はいつも生徒たち一人一人です。生徒の名演を一瞬でも見逃すことがないよう、その輝きにスポットライトを当て、生徒の台詞を聞き逃すことのないよう、集音マイクの如く声を拾い、誰もが主演となる学校となるよう努めていきます。

何かを好きであることは幸せにつながりますが、好きでい続けることは時に辛さも伴います。実際に私自身もホークスが弱小時代にファンであることを隠していたこともありました。その辛さや苦しきの後は必ずそれまで以上の幸せが待っています。多くの経験を積み重ねながら今年度の終わりに生徒全員が「勉強が楽しかった」「このクラスで良かった」「各行事が思い出の残った」「中央中で良かった」「幸せを多く感じた」となるように教職員が一丸となって取り組んでいきます。